

はじめにこちらをお読みください

小中学校再編に関する市民アンケート調査

ご回答のお願い

市民の皆様には、日ごろより各務原市の教育行政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

全国的な少子化が進行する中、本市においても、児童生徒数が減少し、市内小中学校の小規模化が進んでいます。小規模化の進行により、将来的に、教育環境への様々な課題が生じることが懸念されることから、令和2年に市内の小中学校について、その適正規模や適正配置に関する検討を行いました。

その検討の結果としては、適正化すべき基準よりも小規模になると推計される学校（全校の児童生徒数が120人以下になると推計される学校）が5校ありましたが、しばらくは全ての小中学校を維持し、その動向を注視することとしました。

この検討から約5年が経過しましたが、依然として本市全体の児童生徒数は減少傾向にあります。市内には17校の小学校がありますが、そのうちの5校は、現時点で、ほぼ全ての学年で1クラスとなっており、入学から卒業までクラス替えができない状況となっています。

市教育委員会では、ある程度の学校の規模で多様な意見に触れながら、互いに切磋琢磨できる学びを展開したいという前向きな発想で、再編を行うことによって、子どもたちによりよい教育環境を提供したいと考えております。

そこで、令和7年度から8年度にかけて、改めて、市内の全小中学校を対象とした再編に関する取組みを行うこととしました。

つきましては、市民の皆様から広くご意見をうかがうため、アンケートを実施いたします。

調査をお願いする方は、市民の中から、無作為に選ばせていただいております。また、アンケートは無記名で行うため、個人が特定されることはありません。

皆様にはご多忙のところ、誠に恐れ入りますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

アンケートは、右記二次元バーコードより、ウェブにてご回答ください。

※回答時には、アンケート用紙に記載されたパスワードをご入力ください。



回答期限:8月29日(金)まで

令和7年8月

各務原市教育長

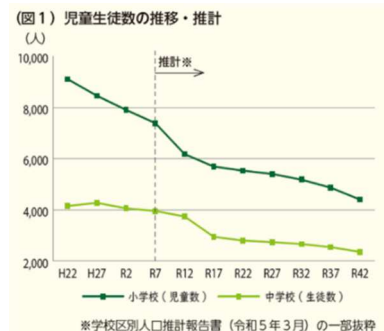
小中学校の再編等に向けた取組について

～みんなで心豊かな子どもたちを育てために～

Ⅰ 市内小中学校児童生徒数の現状

- 本市の児童生徒数は、今後も減少が見込まれます。(図1参照)
- 令和7年度の小学校の入学者数も、学校により大きな差があります。
一番多かった学校の1年生は149人、一番少なかった学校は13人と、10倍以上もの差があります。(表1参照)
- すでに各学年1学級の学校が複数ありますが、近い将来、複式学級※となる学校も予測されます。

※ 児童生徒数の減少により、異学年が1つのクラスとなること



(表1) 児童生徒数の現状について

小学校の通常学級数及び児童数

学校名	通常学級 (実学級)	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校児童 総数	規模
那加一小	28	149	172	148	159	140	127	895	大規模校
那加二小	16	82	79	72	75	70	78	456	適正規模校
那加三小	13	71	58	86	63	73	71	422	適正規模校
尾崎小	6	19	18	26	31	28	29	151	小規模校
稲羽西小	12	48	45	46	61	47	47	294	適正規模校
稲羽東小	6	21	19	20	21	19	19	119	適正化すべき小規模校
川島小	22	107	98	127	131	129	118	710	大規模校
鶴沼一小	18	94	97	107	94	101	108	601	適正規模校
鶴沼二小	19	98	100	92	139	107	109	645	大規模校
鶴沼三小	19	77	105	116	105	103	99	605	大規模校
緑苑小	6	13	16	11	20	19	23	102	適正化すべき小規模校
八木山小	7	23	19	17	36	27	27	149	小規模校
陵南小	13	43	72	57	59	56	75	362	適正規模校
各務小	6	24	17	25	32	24	34	156	小規模校
蘇原一小	24	118	118	135	107	142	135	755	大規模校
蘇原二小	15	63	82	80	84	70	74	453	適正規模校
中央小	12	50	56	64	63	61	63	357	適正規模校
	242	1,100	1,171	1,229	1,280	1,216	1,236	7,232	

中学校の通常学級数及び生徒数

学校名	通常学級 (実学級)	1年	2年	3年	全校生徒 総数	規模
那加中	18	203	194	199	596	適正規模校
桜丘中	10	98	97	126	321	適正規模校
稲羽中	9	97	94	75	266	適正規模校
川島中	12	128	150	128	406	適正規模校
鶴沼中	15	161	162	174	497	適正規模校
緑陽中	10	118	103	90	311	適正規模校
蘇原中	19	217	195	233	645	大規模校
中央中	22	244	240	260	744	大規模校
	115	1,266	1,235	1,285	3,786	

※令和7年5月1日時点

(表2) 規模別の分類

- 市内小中学校は通常学級数等により表2のように分類されます。
- この分類は、文部科学省の定義によるほか、これを参考として、各務原市学校適正規模・適正配置等基本計画(令和2年策定)にて決めました。

※当時の基本計画はこちら ➡



- 現時点において、本市には、「過大規模校」はありませんが、「適正化すべき小規模校」があります。

規模別の分類	検討する対応	市内 小学校	市内 中学校
過大規模校 小中ともに、31学級以上	速やかに解消を図る	なし	なし
大規模校 小中ともに、19～30学級	—	5校	2校
適正規模校 (小学校)12～18学級、(中学校)9～18学級	—	7校	6校
小規模校 (小学校)11学級以下、(中学校)8学級以下	—	3校	なし
適正化すべき小規模校 小規模校のうち、全校児童生徒数が120人以下	様々な視点から検討して適正化を進める	2校	なし

※令和7年5月1日時点

2 クラス数が少ないことによる課題

●小規模校(クラス数が少ない学校)には、良さもある一方、以下のような様々な課題があります。

平成27年1月27日 文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」より

(学級数が少ないことによる学校運営上の課題)

- ① クラス替えが全部又は一部の学年でできない
- ② クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない
- ③ 加配なしには、習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい
- ④ クラブ活動や部活動の種類が限定される
- ⑤ 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる
- ⑥ 男女比の偏りが生じやすい
- ⑦ 上級生・下級生間のコミュニケーションが少なくなる、学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる
- ⑧ 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる
- ⑨ 班活動やグループ分けに制約が生じる
- ⑩ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる
- ⑪ 教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる
- ⑫ 生徒指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける
- ⑬ 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる
- ⑭ 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる

(教職員数が少なくなることによる学校運営上の問題)

- ① 経験年数、専門性、男女比等バランスのとれた教職員配置やそれらを生かした指導の充実が困難となる
- ② 教員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり、教員数が毎年変動することにより、学校経営が不安定になったりする可能性がある
- ③ 児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる可能性がある、多様な価値観に触れさせることが困難となる
- ④ ティーム・ティーチング、グループ別指導、習熟度別指導、専科指導等の多様な指導方法をとることが困難となる
- ⑤ 教職員一人当たりの校務負担や行事に係る負担が重く、校内研修の時間が十分確保できない
- ⑥ 学年によって学級数や学級当たりの人数が大きく異なる場合、教員間に負担の大きな不均衡が生じる
- ⑦ 平日の校外研修や他校で行われる研究協議会等に参加することが困難となる
- ⑧ 教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達がなされにくい(学年会や教科会等が成立しない)
- ⑨ 学校が直面する様々な課題に組織的に対応することが困難な場合がある
- ⑩ 免許外指導の教科が生まれる可能性がある
- ⑪ クラブ活動や部活動の指導者確保が困難となる

3 市内小中学校の老朽化の状況

- 本市の学校施設は、昭和30～50年代にかけて建設されたものが多く、建替を行う時期が差し迫っています。（表2参照）
- 学校施設の目標使用年数は70年～80年です。
- 建替工事を行った後、すぐに、再編による改修工事が必要になるという手戻りが起きないようにしなければなりません。
建替工事は、児童生徒数の今後の動向を踏まえた、再編検討の結果に基づいて行うことが必要です。

（表2）

学校施設の状況について

小学校名	建設年度※	経過年数
那加第一小	昭和39年度	61
那加第二小	昭和44年度	56
那加第三小	昭和46年度	54
尾崎小	昭和50年度	50
稲羽西小	昭和39年度	61
稲羽東小	昭和44年度	56
川島小	昭和50年度	50
鵜沼第一小	昭和46年度	54
鵜沼第二小	昭和45年度	55
鵜沼第三小	昭和48年度	52
緑苑小	昭和50年度	50
八木山小	昭和51年度	49
陵南小	昭和58年度	42
各務小	昭和43年度	57
蘇原第一小	昭和32年度	68
蘇原第二小	昭和46年度	54
中央小	昭和52年度	48

中学校名	建設年度※	経過年数
那加中	昭和35年度	65
桜丘中	昭和60年度	40
稲羽中	昭和33年度	67
川島中	昭和39年度	61
鵜沼中	昭和36年度	64
緑陽中	昭和52年度	48
蘇原中	昭和41年度	59
中央中	昭和53年度	47

※各学校の中で、最も古い校舎の建設年度

【アンケート記入上の注意】

- ◎アンケートは無記名で行い、統計的に集計いたしますので、個人が特定されることはありません。
- ◎誠に勝手ながら、質問によっては、回答できる数を指定させていただいております。必ず、指定の数を
守ってお答えください。（指定数以上の回答をされた場合、その回答は無効扱いとなります。）
- ◎本調査内容と直接関係のないご意見などは、集計の対象といたしません。

【お問い合わせ先】

各務原市役所 教育委員会事務局 教育施設整備推進課

TEL:058-383-7302 FAX:058-389-0218

E-mail:kyseibi@city.kakamigahara.gifu.jp



あなた自身のことについておうかがいします

問1 あなたは現在おいくつですか。(1つだけ選択)

1. 10歳代 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60歳代以上

問2 あなたのお住まいの小学校区はどちらですか。(1つだけ選択)

1. 那加第一 2. 那加第二 3. 那加第三 4. 尾崎 5. 稲羽西 6. 稲羽東
7. 川島 8. 鵜沼第一 9. 鵜沼第二 10. 鵜沼第三 11. 緑苑 12. 八木山
13. 陵南 14. 各務 15. 蘇原第一 16. 蘇原第二 17. 中央
18. わからない(住所をご記入ください ※丁目まで) ()

問3 あなたと同居している家族に次の年齢(学年)の方はいますか。(いくつでも選択可)

1. 未就学児(0~5歳) 2. 小学生 3. 中学生 4. いない

これからの小中学校の在り方についておうかがいします

問4 子どもたちの教育環境について、特に重要だと考えるものをお選びください。(3つまで選択可)

1. 児童生徒が多様な意見に触れることができる
2. 新たな人間関係を構築する力(社会性やコミュニケーション能力)を身に付けやすい
3. 一定規模の集団を前提とした活動や行事が充実している(体育、合唱、部活動、運動会や遠足等)
4. クラス替えを契機として児童生徒が意欲を新たにすることができる
5. 学級同士が切磋琢磨する環境が整っている
6. 学級の枠を超えた習熟度別指導や、教員の役割分担による専科指導等の多様な指導が行いやすい
7. 児童生徒同士や児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編成ができる
8. 一人ひとりの学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい
9. 意見や感想を発表できる機会が多い
10. 様々な活動において、一人ひとりがリーダーを務める機会が多い
11. 異年齢の学習活動を組みやすい、体験的学習や校外学習を機動的に行いやすい
12. 郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい
13. 保護者や地域と連携した効果的な生徒指導が行いやすい
14. その他()

問5 児童生徒数の減少やそれに伴う学級数の減少が推測されるなか、子どもたちにとってよりよい教育環境とするために、今後どのようにすることが望ましいと考えますか。(1つだけ選択)

1. 現行の学校配置にこだわらず、積極的に学校再編を進めていくべきである。
2. 現行の学校配置を出来るだけ維持して欲しいが、子どもたちの将来を考えると、再編もある程度はやむを得ない。
3. 現行の学校配置は絶対に維持すべきであり、複式学級※になったとしてもやむを得ない。

※ 児童生徒数の減少により、異なる学年の子どもで1つの学級を作ること

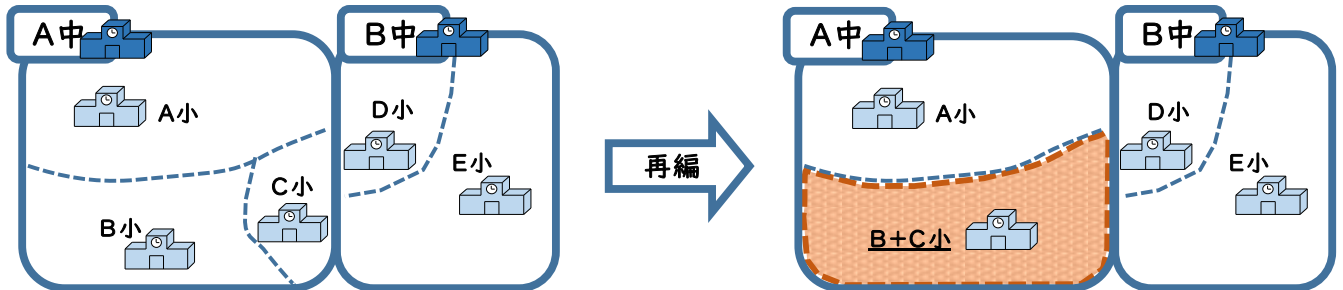
4. その他()

再編の手法や考え方についておうかがいします

問6 仮に、あなたのお住まいの近くの学校が再編の対象校になったとします。

学校の再編には、色々なパターンが考えられます。下記にいくつかの再編パターンを例示しますので、それぞれのパターンについて、許容できるかどうか、あなたの考えに最も近いものをお選びください。(1つだけ選択)

[パターン1] 同じ中学校区の中で、小学校同士を統合する。



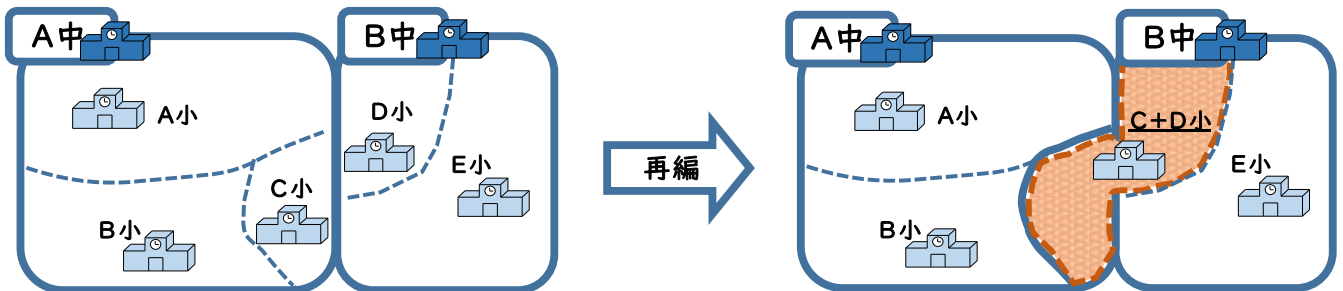
(1つだけ選択)

1. 許容できる
2. どちらかといえば許容できる
3. どちらともいえない(分からない)
4. どちらかといえば許容しがたい
5. 許容しがたい

ポイント!

- ・小学校ごと統合するため、今までの友達と離れない。
- ・中学校についても、今までと同じ学校に通う。

[パターン2] 中学校区をまたいで、小学校同士を統合する。



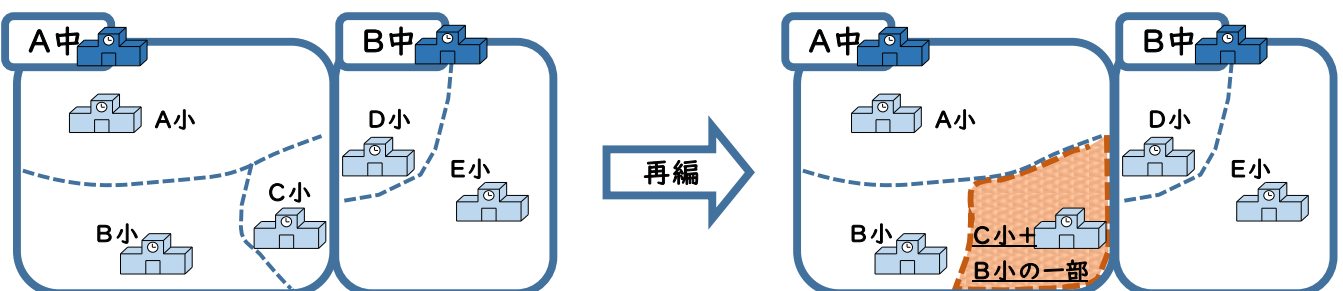
(1つだけ選択)

1. 許容できる
2. どちらかといえば許容できる
3. どちらともいえない(分からない)
4. どちらかといえば許容しがたい
5. 許容しがたい

ポイント!

- ・小学校ごと統合するため、今までの友達と離れない。
- ・中学校は、今までと違う、隣の学校に通う。

[パターン3] 同じ中学校区の中で、小学校区を変更する。



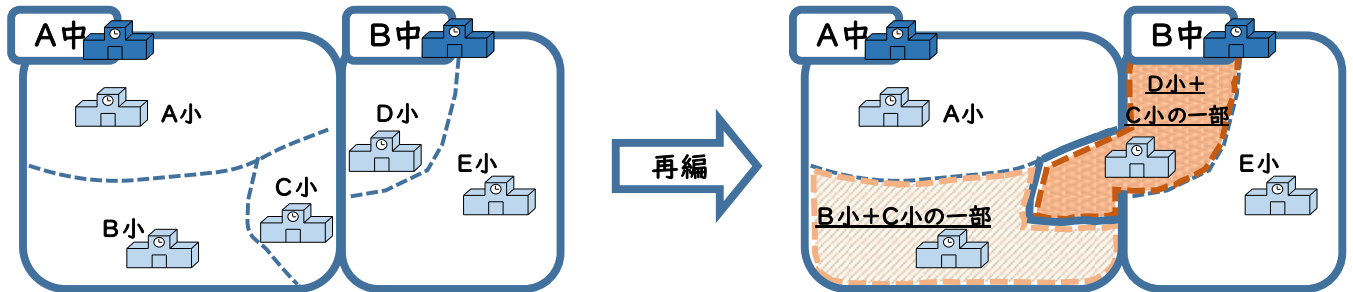
(1つだけ選択)

1. 許容できる
2. どちらかといえば許容できる
3. どちらともいえない(分からない)
4. どちらかといえば許容しがたい
5. 許容しがたい

ポイント!

- ・今までの友達のうち、一部の子は、隣の小学校に分かれる。
- ・中学校については、今までと同じ学校に通う。

[パターン4] 中学校区をまたいで、小学校区を変更する。



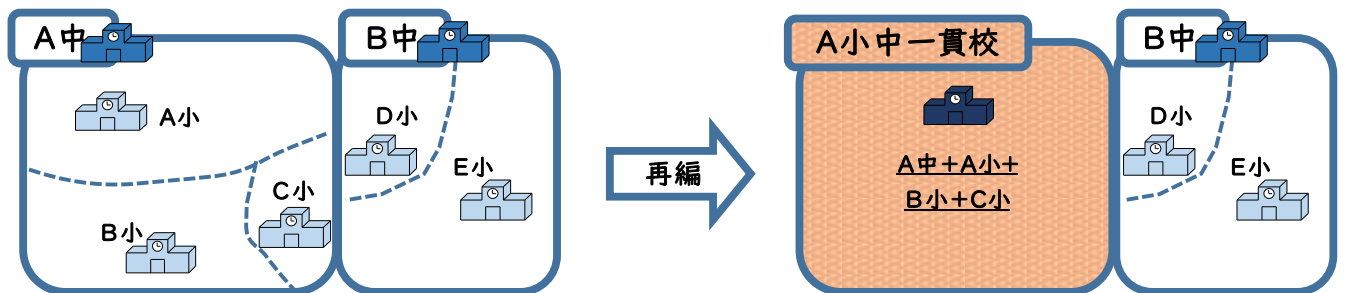
(
一つだけ
選択
)

1. 許容できる
2. どちらかといえば許容できる
3. どちらともいえない(分からない)
4. どちらかといえば許容しがたい
5. 許容しがたい

ポイント!

- ・今までの友達のうち、一部の子は、隣の小学校に分かれる。
- ・中学校については、今までと違う、隣の学校に通う。

[パターン5] 同じ中学校区の中で、小・中学校を統合し、小中一貫校※とする。



(
一つだけ
選択
)

1. 許容できる
2. どちらかといえば許容できる
3. どちらともいえない(分からない)
4. どちらかといえば許容しがたい
5. 許容しがたい

ポイント!

- ・小学校ごと統合するため、今までの友達と離れない。
- ・中学校についても、今までと同じ学校に通う。

※小中一貫校(小中一貫教育制度)について

小中一貫校(小中一貫教育制度)とは、小学校1年生から中学校3年生までの義務教育9年間を一つの教育課程とした、系統的教育を目指す新しい学校として再編する制度です。

この新しい学校の形態として、一つの学校としての「義務教育学校」のほか、従来の小・中学校はそのままに、学校運営を一つとした「小中一貫型小学校・中学校」があります。

本制度の導入により、教員数が増えることで、教科担任制による授業を展開することができ、より深い学びにつながるとともに、異学年の児童生徒の交流などが期待されます。

一方、特に義務教育学校においては、小学校卒業の節目がないことから、小学校高学年におけるリーダー性を育成する機会が減少する懸念もあります。県内では、義務教育学校として、「北方北・南学園(北方町)」や「藍川北学園(岐阜市)」、「桑原学園(羽島市)」などが運営されています。

問7 再編が行われる場合、重視すべき事項について、当てはまるものをお選びください。(3つまで選択可)

1. 子どもたちの適正な通学環境の確保(時間・距離・交通手段・安全)
2. 進学先の変更等による子どもたちの人間関係づくりや心身の負担軽減(ケア)
3. 一定規模の児童・生徒数及び学級数の確保
4. 学校と地域、コミュニティのつながりが強いこと
5. 保護者や地域住民への十分な説明
6. 避難所・避難場所の確保
7. 義務教育9年間を通した自由なカリキュラム
8. 学校跡地の有効な活用方策の検討
9. 自治会の区切りと校区の区切りをできるだけ合わせること
10. 学校の新築又は建替による充実した学習環境
11. その他()

問8 その他、学校再編について、ご意見を自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。